

NETWORK since 1983 TERRA

VOL.125



タイの奨学生たち

撮影：井上陸平氏

2006

秋

目次

CONTENTS

■特集

ミャンマーツアー

「ミャンマーエコトレック」

.....4~5

TPA 理事紹介

「わたしたちがりじです」

.....8~9

■連載

第三の眼.....2

とげずと云ふことなきなり.....3

サバイティールータイからの手紙ー.....10

■報告

ミャンマー森復元プロジェクト.....6

タイ地球市民奨学金だより.....7

会いたくて たまらない

地球市民の会理事 森永 勝馬

古賀会長に一目惚れして十八年余り。古賀会長に会いたくて、寝められたくて、叱られたくて通い詰めた地球市民の会です。そこには素敵な奥様と日本全国の、世界各国の人間力溢れる人達が大勢出入りされていました。

地球市民の会の活動の中が大きい過ぎて、メニューが多過ぎて、最初は大変戸惑いました。そこで私に出来ることから始めました。書き損じハガキの提供です。何気ない日常で見過ごされがちな書損じハガキ一枚一枚が、多くの人の協力により、やがて国際協力につながるスケールの大きさに感動し、周りの人達に声を掛け続けたのが活動への参加の第一歩でした。

次に「世界が歩いて我家にやって来る」小さな地球計画・かちがらす計画（ホームステイ事業）のホストファミリーとして子供たちの受け入れを始めました。それも日本語で、佐賀弁で出来る国際交流です。私の為のプログラムだと思いました。そして二週間後に迎えた感動の涙、涙、涙、が活動の源泉となりました。今も、手紙での交流や、日本への出張の毎に電話をかけてくれる友、「台風が九州に接近」というニュースの毎に心配して電話をかけてくれる友が私にはあります。幸せなことです。

そして、タイの中学生・高校生への奨学金事業への参加と発展して行きました。我家の長男が中学入学時に始めた里親を通じてエアメールを頂く喜び、エアメールを書ける幸せを実感しています。里子の成長と里子の感謝の表現のすがすがしさが、私に大切な多くの気づきを与えてくれます。私の会員、理事としての活動の原点はこうした多くの地球市民の会を通して知り得た人々によって支えられています。今、私に出来ることは限られています。が、せいじつぱい関って参ります。これから通い続けさせて下さい。

秋の夜は、恋しくて

会いたくて たまらない

古賀会長に（奥様にも）

世界の平和と親善 地域社会の向上発展



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

特定非営利活動法人

地球市民の会 TERRA PEOPLE ASSOCIATION

840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10

TEL 0952-24-3334 FAX 0952-24-7321

E-mail: office@tpa.nk-i.net

ホームページ: http://tpa.nk-i.net



語り継ぐべきこと

― 筋、歴史、沿革、縁、恩を忘れない。―

地球市民の会会長 古賀 武夫

秋

冷の候、皆様、いかがお過ごしでしょうか。超弩級の暑さの夏がいつの間にか、急に過ぎ去り、当地では、涼しい風が吹き、今日も青空が澄み渡った、素晴らしい季節がやって参りました。

昨日は、(特活) 夢の学校を作る会主催の土ようタマテ箱の遠足で、吉野ヶ里遺跡に行つて参りました。私は、一九九二年、吉野ヶ里遺跡での「小さな地球計画」のシンポジウム、七年前のウォークラリー以来、久しぶりの訪問でしたが、その整備の進展ぶりに本当に驚いてしまいました。さすが、弥生時代最大級の環濠集落遺跡と言われるほどのことはあります。青森の三内丸山遺跡も素晴らしいですが、まだ行かれた事の無い方は、是非一度訪れて下さい。決して後悔はされませんよ。

さて、我が国では、縄文、弥生、そして時代は、ずっと下って、平成十八年、二〇〇六年の現在に到る訳ですが、私は、今、自分、家、そして、地球市民の会等等、自分の関わって存在するものの意味を考えています。

二年前に母が他界し、なんと、四男である私が、家を継ぐこととなりました。私は、私が九ヶ月のとき亡くなった祖父の顔を覚えておりません。私の家内、そして、三人の子供たちは、それぞれ、結婚し、生まれたときには、既に他界していた私の父、彼らの祖父を見たこともありません。私が結婚する前に亡くなっている私の兄や祖父母を知っている筈も有りません。従って、写真を見ても誰が誰やら判る訳が有りません。

地球市民の会の職員にしても同じことです。私が会長を仰せ付かったのが一九九三年です。その後に入ってきた職員や会員さんが、誰のおかげで、この会ができ、今日まで存続して来ているのか、その方々のお顔が目につかぶ訳が有りません。

私は、この事は由々しき事であると考えました。恩を忘れ、その来歴を知らぬ、教えて行かぬ、語り続けて行かぬ、学んで行かぬ団体、家は、存続できる訳がありません。そこで私は考えました。ミャンマー事業、その他の事業は、お蔭様で、会員、役員、職員の皆様が行って下さっています。設立当初からの歴史を記すのは私の仕事、私を置いて、他にはいない役割、責任なのだ。

地球市民の会の発案者は私であつたかも知れませんが、しかし、これまでの道程には、無数の恩人が居られます。中でも、井田田之初代会長、故香月義人最高顧問、故永倉眞一郎初代副会長他の方々、佐賀県全体に当会を知らしめて頂いた大恩人です。二代会長小原嘉文氏は、当会を全国規模にしていた大恩人であり、当会として私は、その皆さんのご尽力を引き継いだ第三代会長に過ぎません。

又、タイの故ジャナロン・メキンタランクラ氏は、当会の活動をタイに広める中で、そして、末次一郎先生は、青年海外協力隊創設者として、佐賀県協力隊を育てる会設立において、故吉田東洲先生は、「人類の持つべき文明」という、当会の進むべき道をもっとも明確に指し示して

頂いた、最大の功労者、大恩人です。

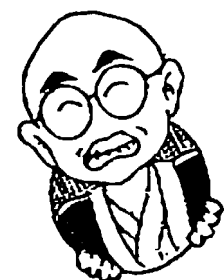
当会は、九月に有頂地球市民の会神戸(仮称)が発足し、十月には京都地球市民の会(仮称)も立ち上がる予定です。アメリカのマサチューセッツにも、韓国のプサン、又全国各地、世界各国でもテラリングはどんどん広がりを見せています。

ここで大事なことは、各地の地球市民の会の代表者が、地球市民の会、そして、各地区地球市民の会および、テラリング参加団体が、「設立当初の理念、歴史を必ず新しい会員の皆様に伝え、教えて行くとする責任」を果たす事なのです。その「歴史の共有」こそが、地球市民の会の地球市民の会たる所以なのであります。

そこで、私は、家長として、地球市民の会会長として、又、テラリングの代表として、何をしたいとお思いでしょうか？

それは、何も大した事では有りません。家には、ご先祖お一人お一人の写真、地球市民の会事務局には、初代会長以下大恩人のお写真を額装して、皆さんの目に付く所に飾らせて頂いているだけです。勿論、それぞれのお名前、生年月日、在職期間、鬼籍に入られた方々は、没年月日を入れさせて頂き、一目で、その方の事が判る様させて頂いております。

是非、皆様も、新しい未来はこれまでの歴史の上にのみ開けるものである、ということを確認して頂き、個人としても、家としても、そして勿論、地球市民の会全体としても、更に発展し、「世界の平和と親善、地域社会の向上発展」という私たちの理想



実現に向け、尚一層のご努力を頂きます様お願い申し上げます。実りの秋のご挨拶に代えさせて頂きます。有難う御座います。

(平成十八年十月十五日)

地球市民運動

人 社会 自然 の相互依存を十分認識し

すべての いのち を慈しみ 強く 優しく 豊かに 美しく育てる

第10話 「二人の青年」

ミャンマープロジェクトマネージャー 大野 博之

今年のタンボジ青年育成寮（以下タンボジ寮）の10年生の試験の結果は優秀なものでした。（ミャンマーの教育事情については、8～9ページの囲み記事をお読みください。）

タンボジ寮はTPAのカウンターパートである政府ナタラ省（辺境民族開発省）とともに運営しています。ナタラ省は、少数民族が経済的に貧困であるという理由と辺境での公務員数を増やさなければならないという理由で独自の大学を持っています。この大学は全寮制で、学費・生活費ともに政府負担なのです。われわれの寮生の多くは貧困な家庭から来ていますので、大学進学は夢のまた夢なのですが、ナタラ大学だけは唯一の希望なのです。そして、タンボジ寮の寮生はナタラ省の事業でもあるために優先的にこの大学進学の推薦をもらえます。

今回はこのタンボジ寮の合格生であるトゥアウンについてお話したいと思います。彼は10年生の試験に残念ながら身体測定で背が0.5インチ足りなかったという理由でパスしませんでした。トゥアウンは成績が抜きん出て良かったわけでもないのですが、非常にまじめな学生でいつもこつこつと努力を続け、農作業も率先して行う学生でした。彼ならば、ナタラ大学に行かなくても村で立派にリーダーとして育てられるだろうと思っていました。そんな矢先、彼が私の元へ涙ながらに訴えてきたのでした。

彼の村の両親が離婚した後、夫々再婚して別の生活を始めてしまい、彼には帰る家がなくなってしまったというのです。もともと貧困な家庭がなおいっそう貧困な状況となり、彼には農業をする土地もなく、ナタラ大学が唯一の希望でした。彼の相談とはタンボジセンターで雇って欲しいという内容でした。彼の村は病気になっても医者はおらず、昔ながらの伝統医療だけが病気の際の治療方法です。彼は、お金をためて通信制の大学へ通って保健衛生を学び、村のために病気にならない方法を勉強したいというのでした。

彼の話を聞いて、彼の境遇そして彼の志を汲み、何とかしてあげたい気持ちになりました。しかし、タンボジセンターではスタッフを余分に雇う余裕はありません。TPAには18人の現地人スタッフがあり、皆一様に大変な生活をしていますので、私が個人的に支援するには限界があります。私はどうしようか悩んでいました。

そんな本年8月、日本からTPAのツアーを受け入れ、タンボジセンターに2泊3日滞在して研修や交流を行いました。参加者の中には、このセンターに来なければ高校進学ができなかったミャンマーの高校生たちとの交流により、日本における環境との違いに大きなショックを受けた人もいました。その中のメンバーに野口翔平君（九州東海大学2年生）もいました。彼は、どちらかといえば無口で朴訥なところがある青年でしたが、心に秘めるものがあつたのでしょうか。彼はミャンマーを離れる際に私に白い封筒を差し出し、「この中にお金がありますから、これをトゥアウンのために使ってください」といいました。それは、彼がミャンマー滞在中に使うための彼の小遣いとお土産のお金です。

中身を見ると74,500チャットが入っていました。「お土産とか買わなくていいの？」と尋ねる私に彼は、「そがんとは買わんでもよかです。自分と同じ学生で困っている寮の学生のために使いたかです。」と答えました。日本円にして7,500円相当のお金は大学2年生には大金です。

私はそのお金を大切に預かりました。そして、これをトゥアウンのための奨学金にすることにしました。月10,000チャットずつ奨学金として支給する代わりに、センターでインターンとして勉強しながら働いてもらうことにしました。彼はそのお金を貯め、大学へ行くための資金とします。食事と寝床はセンター長が資金をやりくりして余分な負担が出ないようにしてくれます。これで、彼の将来の道に少しの明かりが灯されることになりました。野口君のお金は36ヶ月のうちの7ヶ月の資金分しかないので、残りはこれからTPAで探していくことになると思います。しかし、野口君のトゥアウンのために支援をしたいという一番初めの行動がなければ、彼には暗い将来しかなかったでしょう。トゥアウンは「この恩は村に帰って村の役に立つことで恩返しをしたい。」と感謝の気持ちを表していました。

日本の青年の何とかしてあげたいという真摯な気持ちと、ミャンマーの青年のその恩に報いるために人の役に立つ人間になろうという志が結ばれました。私はこの二人の青年の間に起こった出来事に、人の縁そして人の心の結びつきの不思議さを感じずにはいられませんでした。このような国境を越えた人と人の繋がりを広げていくのもわれわれTPAの仕事なのです。（了）



タンボジ寮での様子（写真右端がトゥアウン君）



寮生と農作業する翔平君

行ってきました!

アジア自然学校

ミャンマー エコ・トレック 2006

残暑の日本を抜け出し、いざ、ミャンマーの高原へ!

～バラエティー豊かなメンバーのゆかいな珍道中～



報告者: 畑

■日程と主な内容■

- 8月17日: 日本脱出! 期待と不安、皆それぞれ胸の内は……。
- 8月18日、19日: タンボジセンターで寮生と交流&循環型農業体験。
- 8月20日: インレー湖ボートトリップ 湖上生活探検隊が行く!
- 8月21日: ハムシー村にホームステイ。これであなたもポオー族!
- 8月22日: デモファーム視察、カックーパゴダ見学。そして振り返り……。
- 8月23日: 僧院訪問ーヤンゴンで緬国の陰陽を垣間見る。
- 8月24日: みな無事帰国。お疲れ様でした。



◇タンボジセンター 涙の別れ◇

十八日〜二十日、タンボジセンターでお世話になりました。この寮では村のリーダー候補である高校生十六名が、高校に通いながら循環型農業を学んでいます。

私達の訪問に彼らは屈託のない笑顔で迎えてくれ、おいしい食事まで用意してくれました。早朝の農作業、不慣れでもたたく私達を尻目にテキパキと動くその姿は、小柄な身体に逞しさを感じました。夜は日緬の遊びや踊りを教え合い、互いの言葉で名前を付け合ったりしました。これらの共に触れ合った時間が彼らとの距離を急速に縮め、別れのとき涙が止まらない人もいたほど、ここでの二日間は私達に、最高の思い出と充実感を与えてくれたのでした。
※写真右上:

農作業を終えて

◇はしゃいだ、浸った インレートリップ◇

二十日はミャンマー随一の風光明媚な観光地「インレー湖」をボートで巡りました。あいにく小雨も降る曇り空でしたが、合羽を片手に、そんなことにくじける私達ではありませんでした。

インレー湖では人々が湖上生活をしており、高床式の家々が湖上に浮かび、見たこともない作物が水上栽培されています。広大な湖の一角にレストランやホテル、ショップが点在しており、私達はシルク工房、和紙工房(緬国なので『和』ではありませんが……)、鍛冶屋などを訪れ、職人技とショッピング両方を楽しみました。この夜は水上コテージで宿泊、美味なインレー料理と共に民族舞踏を堪能し旅の中間地点通過を祝い、リゾー ト気分になりながら疲れを癒したのでした。

旅の

ハイライト

◇こんなことあったよ、 したよ!◇

一、日本の市バスが走ってる!?

ミャンマーの地で何と日本の中古市バスに目にかかりました!物を大事に長く使って大切だと改めて考えさせられました……が、たいていの車・バイクから真つ黒い排気ガスが。整備もきちんとしてしまう!

二、ミャンマーの温泉とは……

タンボジにも温泉が!市営プールのような露天と風呂付牢獄のような個室。でもここでは貴重なお湯、十分気持ちよくてスッキリさっぱりリフレッシュしました。

三、パゴダで自分・知人探し

パゴダの小仏塔に納められている仏様は皆顔が違い、どこかで見たような顔も……。自分を探し出した人もいました!

◇ハムシー村 あなたも私もポオー族◇

二十一日はポオー族のハムシー村でホームステイを一泊させてもらいました。ハムシー村はハムシー高校寮の設備改築などでも繋がりが深い村の一つです。私達が到着すると村中の人が集まっており、まるで自分が動物園の珍獣であるかのような心境を味わいました。ハムシー村の生活は、音や光に溢れた生活を送る私達には新鮮であると同時にどこか懐かしさも感じました。そこには未だ『向こう三軒両隣』の精神があり、日本が失ったもの・日本人が忘れてしまったものを思い出させてくれました。言語が通じなくとも、笑顔と涙は世界共通の言葉……私達はたった一日だけでも確かに彼らの家族になることができました。



「ミャンマーで学んだこと」 楠田 円香

この旅に出るまで、私は発展途上国と聞くと「貧しい」「かわいそう」というイメージがあり、全く私には関係ないところの話だと思っていました。

この旅で私は沢山のことを学びました。特にタンボジセンターでは自分と同年代の子達が農業をする傍ら、勉強を楽しんでやっている姿を見ました。今まで私は当たり前のように学校に通い、勉強も力になる為ではなく成績のためにやっていました。私は自分がどれだけ恵まれた環境にいたのかがわかりました。

ミャンマーは日本みたいにものが溢れている訳ではなく、電気や下水の設備も行き届いていなかったり、ヤンゴンには物乞いをしている子どももいます。しかし、今回出会った人達はみんな優しく、すてきな笑顔を持った人達ばかりでした。日本はとても発展したけど、その途中で優しさや思いやりの心を忘れてしまったのではないかと思います。そういう心を日本人が取り戻せば、日本はもっといい国になるのになぁと思いました。

高校2年生の今ミャンマーに行けたことはとてもいい経験になりました。日本以外の国の今を實際見ることができ、今までの生活を見直すきっかけになりました。

「ミャンマーエコ・トレックに参加して」 宮北 志野

私にとって、事業現場を訪れ説明いただき、実際に体験させていただいたことはとても新鮮なことでした。思ってみれば、生きていく上で一番大切な「食」の原点である農業というものに触れたのは初めてであり、そのことに私自身とても驚きました。私の中で国際協力とは物資の支援や道路整備・建設などのイメージが強かったのに対し、農業技術とその考え方の伝播といった形に新鮮さを覚えました。ハード面の整備などは私の勉強が役に立てるような気もして嬉しくなりました。

一週間にわたる旅で交流などを通じ、次第に参加者みんながミャンマーという国に惹かれていったように思います。私もその一人であり、この国は私たちが習うべき点を多く持っているような気がしました。ミャンマーという国はとても子供を大切にすると知り、妙な事件の増える日本ももう一度子供に対する親や社会の責任を見直すべきではないかと切に感じました。初めての国ミャンマーに多少の不安と期待をかかえつつの出発でしたが、終わってみれば長かったような、短かったような貴重な体験をした一週間でした。各人個性をもった参加者やスタッフの方々との出会いもとてもよい刺激になりました。



今回は許可をいただいた参加者様のレポートを一部抜粋・加筆修正して掲載させていただきました。ご協力ありがとうございました。

私自身、初めてのTPA事業サイト訪問で非常に意義のある旅となりました。今後ミャンマー事業担当としても平素の仕事に想いを乗せて、頑張っていきます!!皆さん、ぜひ一緒にミャンマーへ行きましょう♪

「人との出会い」 御厨 初美

ある一つの出会いから世代の違う10代～20代の若者と一緒にミャンマーエコトレックに参加した。戦前と戦後の時代をミックスしたような何か異様な生活へいきなりタイムトラベルしたみたいな錯覚におちいった。仏様の教えをうけ、生活習慣として生きている彼らにはものの貧しさはあっても心の豊かさが感じられた。今の私達の生活はどうだろうか?自分の欲情をむき出しにして、人の心の痛みをわかろうとしているだろうか?

人生80年というが、私はまだ50代!!まだ出来る事があると考えさせられた。人にはそれぞれ年代に合ったできるものがあると思う。10代と20代また40～50代とは全く違った形や考え方で時代を生きている。でも共通点がある。

人にやさしくする事は自分もまた人からやさしくされている事。

思いやりを持つ事は人から思いやりをうけて生きている事。

手をとって、手をつないで生きる。

輪になるとみんな友達。仲間。

助けあいの精神は助けられているから出来る事。

若い世代の人達と一緒にいき、仲間に入れてもらって感謝!!

何かを感じて帰ってきた。それを形に出来に頑張ろうと思った8日間であった。



「人と人とのつながり」 松尾 健一

私は海外に出たのもこんなに多くの外国人とふれあったのも初めてでしたが、ミャンマーの生活はとても魅力的に感じられました。

私がミャンマーに行って一番感動したのは「人と人との絆の強さ」でした。まず今の日本と明らかに違うと感じたのは、ヤンゴンの孤児院を訪ねた時でした。ここには他の村から多くの子供がやってきているのですが、ここに来るための費用は自己負担で、その村で集めるのだそうです。その話を聞いて、私は自分も含めた日本人が恥ずかしくなりました。今の日本人の繋がりとは「豆腐」のようなもので、一応まとまっているのだが、ちょっとした事で簡単に崩れ去ってしまう、そんな感覚を覚えます。また、ホームステイ先では初めての海外に緊張していた私を歓迎してくれ、本当の家族のように接してくれました。この繋がり強さはミャンマーの人々の生活には宗教の教えが根付いているからだと思います。どうかミャンマーは国際化という名の西洋の色だけにそまらず、今持っている心の美しさも忘れないでほしいです。

様々な人々と旅をし、出会い、衝撃を受け、今私なりの目標を持つことができた同時に、自分に足りないものが見えた気がします。このツアーに参加する前は与える立場に立った気持ちでしたが、私も様々なものを得ることができ、お互いの協力の下で成り立つものだと感じました。



地球市民の会は2005年より、ミャンマー連邦・ナウンシンデモファームにて‘森と人が共に生きる村づくり’を目指した植林プロジェクトを実施しています。今回、その中心となってお活躍いただいている造園の専門家・澤治彦氏から、プロジェクトの中間報告をいただきました。

暮らしを支える森づくりから始まるナウンシンの 森再生プロジェクト

地球市民の会がタイやミャンマーで国際支援活動をやっていることは息子からよく聞かされていました。なかでもミャンマーで、原野に農民を入植させ農地を開墾し、ゼロから暮らしを創出するプロジェクトが計画されていることに興味がありました。約3haの土地に多様な樹種を植林し、彼らの暮らしに役に立ち、環境を守る森になってくれることが目的であります。

このような森をつくるという目的の中に、彼らに資源を循環させる知恵を体得してもらい、ミャンマーの、ポーオ族の、誇りとなる暮らし文化を築いていってほしいという願いがこもっています。そもそもそのようなことは、日本では里山で昔からやってきたことでした。その考えが果たして実現出来るか、出来るとしたらどのような森が望ましいのか。異国の植生や気候風土などの情報が少ないなか、ミャンマーの大地を踏むまでは不安がありました。

計画地は標高約1200mの高原で、訪れた大地は一面、赤茶けた裸地に見えました。日本の気候との大きな違いは乾季と雨季の2シーズンで、初めて訪れた2004年3月は乾季のシーズンでした。遠く山肌から路傍の地肌まで赤茶けて見えました。路傍をよく見るとしたたかに雑草が生え、一度壊された森には名前の分からない先駆性の植物が生えていました。

車窓から自然を観察しながら、また、通訳をされたエイエイ先生との会話のなかでミャンマーの自然や暮らしに森がどのように関わってきたかなど、聞くことができました。それでも不安は残りました。そこで自分の身体で自然や樹木と触れあいながらシャン高原の自然を探索することが一番と思い、手始めにタウンジーのホテルやその周辺を散策してみました。見慣れない樹木のなかにサクラの巨木やカシ（ヒマラヤイチイガシと思われる）の巨木、その他にも知っている植物に出会えて少し、心強くなりました。ミャンマーを訪れるまえにシャン高原は照葉樹林帯の植生域ではと推測していましたが、九



九州ランドスケープ(株) 澤 治彦



州でも見られる樹種が確認されたことで森づくりのイメージが少し膨らんできました。その後実際に計画地に立ち、ビジョンが確認でき、不安なりに手応えを感じました。

以来、2005年6月の2度目の現地調査を経て今年7月、3度目の現地調査・植林指導を行いました。今回は、日本でもまだ一般的に広まってはいませんが、今回のプロジェクトに適用する‘自然配植技術（＝土地の条件、周辺の植生などを見極め、その場所の自然を再生するという考え）’の考えや技術を編み出された京都の高田研一先生と、植物分類、植物生態の専門家の方々にも同行していただき、私も含め日本からの4人と現地スタッフの皆さんとナウンシンのデモファームの集会所で3日間、寝泊まりしての指導が始まりました。土間に寝袋でごろ寝は、何年ぶりの体験でした。

集会所で高田先生のレクチャーを受け、現場での指導が始まりました。初日、2日目と一日中配植したり、穴掘りして植え付けたりしました。基本となる樹種が変わるたびに入植者もどうしていいかわからなくなり手足が止まることもしばしばありましたが、彼らがどれだけ理解しているか試験を行ったところ、真剣な目つきに変わりました。

3日目、我々がナウンシンを発つ日、農民たちも聞いておかなければいけないことがあるのか。不安なところがあるのでしょ。もう一度試験を受けさせてくれと自分達で2区画を用意してみんなで配植をしたあと先生の最後の指導がありました。初日の彼らは何をしていいのか迷いがありましたが、最後の3日目には真剣な目つきに変わっていました。我々もその真剣さを感じ取ることができました。来たときはどうなることかと思っておりましたが、なんとか上手いくような手応えを感じてナウンシンを離れました。

先生からの、「間違ってもいいから植えて見なさい」というチャレンジ精神がデモファームの森づくりとなることを期待しています。

この事業は植えることで終わらせるのではなく、これからみんなで環境や暮らしに役に立つ森を育んでいって欲しいと願っています。また、10年先、20年先の森の成長を見たいものです。

タイ奨学金だより

タイ地球市民奨学金の卒業生から手紙が届きました。
今は、彼らは母校のクーキャオ校で教鞭をとっています。



■地球市民の会の里親の皆様へ

まず初めに自己紹介をさせていただきます。私の名前は、プリーヤポン・プロムサオと申します。ノンタディン村に住んでいます。中学一年生から高校三年生までクーキャオ校に通い、高校生の一九九二年から一九九四年の三年間に地球市民奨学金を頂きました。勉強を続ける機会を与えてくださった地球市民の会にとっても感謝しています。私は父親を亡くしていましたが、奨学金なくては現在のようないない未来はなかったと思っています。公立の学校に通う事さえ、私の母親にとっては大きな負担になっていました。クーキャオ

校で学んでいる時は、何事にも一生懸命でしたし、成績も上位でした。ですから、高校卒業後も大学へ通うことができたのです。高校の三年間、母は大変な思いをして私を高校に通わせてくれました。奨学金を受けることにより、自身に誇れる資格を取得することができました。そして、今はこうして母校のクーキャオ校で数学の先生として教鞭をとることができています。

私は、地球市民の会が、子供たちにとって本当に必要としている支援を続けている組織であると常に感じています。そして、子供たちが高校を卒業した後も、より高い教育を受けるチャンスを得ることができるよう、今後も支援して下さることを願っています。私たちや将来がある子供たちを支援してくださっている里親の皆様に心より感謝申し上げます。そして、現在、より良い仕事を与えて頂いていることに重ねて感謝いたします。

最後になりましたが、皆様のご多幸と繁栄をお祈り申し上げます。

■里親の皆様へ

私の名前は、ティーラチャット・チャンサモントリーと申します。一九九二年から一九九四年までクーキャオ校で学んでいました。その当時は、ウドンタニ県のノンパイ村に住んでおり、私は中学生でした。現在、私は三十歳となり、母校のクーキャオ校で教鞭をとっています。クーキャオ中学に通っている頃は、家族は大変貧しく、私が学校に通う余裕は全くありませんでした。そこで、僧侶になるために学校へ通う事を諦めていました。その二年後に、クーキャオ校に地球市民奨学金の制度ができたことを知り、僧院を去ることを決意しました。私が住んでいる村からは、クーキャオ村は大変遠かったのですが、地球市民奨学金を受けるためにこの学校を選んだのです。奨学金を頂いたことにより、私の人生にとってほんとうに多くのチャンスを与えて頂きました。夢をかなえる機会を与えて頂いた事、人生が変わったこと。そして、何より奨学金を受けることができたことは、本当に私の誇りとなっています。

しています。そして、今は先生として働くことができます。思い返すと、この地域に支援してくださった地球市民の会と里親さんたちに大変感謝しています。なぜなら、この地域は発展の機会を与えられ、ひいては、地域社会、国の発展へと繋がっていると思うからです。今後も、ぜひこの奨学金制度を続けて頂きたいと思っています。そして、今までの実績のように、多くの子供たちにより多くのチャンスを与えて下さることをお願いしたいと思っています。最後に、地球市民の会の皆様、そして里親の皆様にご多幸をお祈りいたします。



T P A 理事紹介

わたしたちがりじです

感動こそ人生

副会長 佐藤 昭二



今年六十三歳、地球市民の会にご縁を戴いて約二十年、その前の四十三年間以上の内容の濃い人生だった。これはとりもなおさず地球市民の会皆様のおかげと、心より御礼を申し上げます。特に会長の古賀武夫氏には、

実の兄弟以上の兄弟としてのつきあいをさせていただいている。古賀氏とはよく笑い、よく泣いた。しかし、悲しくて泣いたことはほとんどない。一度だけ、古賀氏の御母堂たまえお母さんが亡くなられたときは、本当に悲しくて泣いた。たまえお母さん、常に我子と思って私に接してくださった。私の人生の中でこのように接してくださった方は他にいない。思い出せば今でもこみ上げてくる。振り返ってみれば、このお母さん有つての古賀武夫であり、地球市民の会だったのかもしれない。また、当会専務理事の山口久臣氏、古賀氏同様兄弟と思っておつきあいお願いしている。限られた人生の中で、このよう肝胆相照らして送れる人生ほど幸せな事はない。そしてこのように仕組んでくれた大いなるものに感謝したい。過去のつらさとは、今日の喜びのためにあったと云うことに……。

地球市民の会の仲間から呼びたい。有り難う御座います。感謝します。

世紀の大喧嘩！

副会長 藤 雅仁



昭和六十三年の年末、『地球市民の会』は韓国の大学生と「力チガラス計画」の準備をしていました。当時は昭和天皇のご病状の悪化で、不遜な言い方をすれば「何時崩御されても」という状況でしたヨ、ホント。計画では明けて七日に「力チポジウム」を開催する事になっていましたが、私は理事会で「万が一天皇陛下のご病状が悪化した場合は中止」を条件に開催に賛成しました。ところが、当日早朝に陛下が崩御なされました。私は予定通り、「力チポジウム」が中止になったものと思っていましたら、翌日の新聞に小さく「力チポジウム」開催と載っているではありませんか。瞬間湯沸かし器の異名を持つ私が怒髪天を衝く状態になったのがお分かり頂けると思います。即日、私は『地球市民の会』に理事の辞表をFAXしましたヨ、ホント。間髪を入れずに古賀武夫事務局長（当時）からお詫びの電話が入りましたが、謝って済むなら警察は要らないって調子で拒否しましたヨ、エヘヘ。（後に和解）今でこそお互い齢を重ね、阿吽の呼吸って感じの関係になりましたが、私にとつてはあの《世紀の大喧嘩》がなければ、『地球市民の会』の一員として存在してなかったんじゃないかって思いますヨ、エヘヘ。

自分にもできること

理事 富吉賢太郎



子どものころ、親や先生から「人に迷惑をかけない人間になりなさい」と教えられてきました。でも、いつ頃からか、「それでいいのだろうか」と思うようになりました。およそ60億人が暮らすこの地球上には、饑餓

資料1 ミャンマーの教育事情 10年生試験編

ミャンマーの教育制度は11年制十大学3年となっています。11年制とは、幼稚園から4年生までが小学校、5年生から8年生が中学校、9年、10年生が高校の11年間の教育システムをいいます。それぞれ、進学に当たっては試験があり、それにパスしなければなりません。毎年落第する人が出るといわれています。試験は基本的に学校単位で行っていますが、10年生の最終試験だけは政府の教育省が行っています。この最終試験は、これにパスすると高校を卒業した資格が与えられます。そして、その成績の良い学生から希望する大学に行くことができます。一番優秀な学生は医学部、そして理科系、文科系となります。ミャンマーは学歴社会ですからこの10年生の試験にパスできるかどうかは人生を決める大きな山場となるのです。ところが、ミャンマー全体のこの試験の合格率は平均30%と非常に低い割合なので、この試験にパスするという意味の大きさはご理解いただけるものと思います。

学校のランクもこの合格者のパーセントで決まります。例えば、ミャンマー屈指の進学校、タウンジー第4高校の今年の試験の合格率は86%です。タウンジーで2番目に優秀なタウンジー第1高校の合格率が60%ですから、その優秀さはさしずめ日本であれば、東大進学者数上位校でしょうか。タウンジーという都市の学校は先生の質、生徒の質も充実していますが、一方、田舎の学校はそうはいきません。例えば、T P Aが支援するチャウタロン高校は61人受験で8人合格の13%、ハムシー高校は16人受験で2名合格の12.5%、ナムンカ高校は18人受験で2名合格の11%、セレー高校は37人受験で3名合格の8%です。田舎部と都市部の学力の差が如実に出てきます。

ちなみにチャウタロン校の合格者のうち3名はT P A福岡の奨学生、ハムシー校の2名は全てT

と貧困に苦しんでいる人たちが十億人を超えるという。その人たちは、人に迷惑をかけない暮らしどころか、きょう一日、生きながらえることが出来るかさえ分からない生活を強いられている。そんな人たちの前で「自分は人に迷惑をかけない人間になるんだ」などと言っているのだらうかと思つたのです。

悪臭を放つごみ山で、カギ棒ひとつ手に金目のものをあさっているフリーピンのスモークンマウンテンの子どもたちの例を出すまでもなく、学校にも行けず働かなければいけない子どもたちがどれだけのいるか。予防接種が受けられずに五歳の誕生日を迎えずに死んでいる子どもたちがどれだけのいるか。そんなことを知ったら、「人に迷惑をかけない人間になる」はとても傲慢な気がしてきただけです。だから、私は「人に迷惑をかけない」だけでなく「社会に貢献できる人間になりたい」と思うようになります。「社会貢献」などとおこがましく、口幅つたい言い方ですが、本当にそう思うのです。そう考えた「自分にもできること」が見つけたのです。今のところタイの子どもの里親とユニセフのマンスリーサポートの募金です。誰にでもあるはずですが、自分にもできることが。



理事 成尾 雅貴

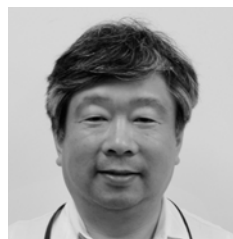
えー、理事の成尾です。九十年、古賀会長（当時は、事務局長でした）に騙されてタイに行かなければ、今頃は県庁の星？として何不自由のない生活を送っていたかもしれません（こ言葉どおりに受け止めないよう！）。

ウドンターニ、ワットサーキャオ、クロントイスラム等を訪問した私にとつて、それはカルチャーショックの日々でした。

…と、ここまで書いて、当時を思い出し、暫し手が止まってしまいました。あれからやがて十六年、当時中学生だったアンボン達は、きつと母親になつていてるでしょう。ヴァンディット校長とも久しく会つておりません。ただ、ワットサーキャオのマユリー校長とは多少の

交流が続いています。幸せ太り？のマユリーは、元気に采配を振るつていようです。それにしても長い付き合いになったものです。

平凡な人生に多くの刺激を与えてくれる地球市民の会は、心を中庸に保つための漢方薬と思つております。会に関わる多くの方々と、身近な感動を共有できる、いつまでも小回りのきいた組織であることを期待しております。



理事 土井 敏弘

みなさん、こんにちは！私は理事をさせて頂いている土井敏弘です。

仕事は自営業で佐賀市の南部、本庄小学校の前で「みどりや茶舗」という屋号で嬉野茶、八女茶の販売をしています。

当店の緑茶は健康と美容にも良くておいしい!!と評判です。「いつでも、どこでも、少しでも」配達しますので是非遠慮なく、ご注文ください。

店の宣伝ばかりになつてしまいました。私が理事を拝命してはや十一年になり、今は国内事業部の「協力隊を育てる会」を担当しています。これはJICAの下部組織で各県に支部があり、佐賀県の場合TPAが受託していて文字通り「青年海外協力隊」のバックアップをするものです。青年海外協力隊は佐賀が生んだ故末次一郎先生が提唱創設されたもので、日本の有能な若者が国際協力、交流することによって国と国との相互理解を深め、引いては外交、防衛にも寄与するという趣旨のもと世界で活躍しています。そのお世話と言う事で、世界に散らばる佐賀出身の隊員に情報を提供したり「小さなハートプロジェクト」という事業で赴任地にバレーボールコートを作ったり野球のユニフォームを贈る手伝いなどを手掛けさせて頂きました。

TPAでは毎月理事会が開かれますが、古賀会長は勿論の事、事務局も含めてそこに集う理事の方々の人間性のすばらしさに曳かれて毎回出席しています。これからも会長の想いである「地球市民運動」がよりいっそう普及する一助になればと願って活動して行く所存でございます。

タイ・地球市民奨学金

2007年度の里親さん、不足しています!!

月々1,000円で子供達が学校に通うことができます。

ご協力お願いいたします!

クーキャオ中学・・・残り2名(募集人数60名)

クーキャオ高校・・・残り3名(募集人数25名)

ボーゲウ校・・・・・・残り6名(募集人数30名)

※ご連絡は事務局まで宜しくお願い致します。

TPAが支援するハムシー寮の子ども、ナウン力校の全ての合格生、セレー校の全ての合格生はTPAが建設した森太郎寮の子どもなのです。非常に地域に貢献しています。

では、TPAが運営しているタンボジ寮の学生はどうだったでしょうか？結果は8人中5人の合格です（合格率63%）。タウンジーの第1高校より優秀です。彼らが通っているカウンタイ高校は72人受験で12人が合格（合格率16%）しています。そのうちTPAの子どもが5人（シェア率42%）です。TPAの子どもたちはよく頑張ったといえます。10年生の試験にパスするかどうかはタンボジの存在意義的にはそんなに重要ではないといえ、当会としても素直に喜んでいいと思います。

サワディー

—タイからの手紙—

ほほえみの国から サワディーカー

その② 今村 祥子



活動対象の高校生とタイ風浴衣でハイ・ポーズ

日泰修好120周年を記念して

来年は日泰修好120周年を迎える記念の年になります。アユタヤ在住のJICAボランティア2名がアユタヤの歴史資料センターにて、それを記念した大きなイベントや特別展の企画を行っており、青少年の為の文化財啓蒙活動をロブリー県（アユタヤから北へ約1時間ほど）でおこなっている私も、その準備をいろいろ手伝わせてもらっています。活動対象のタイ人学生と一緒にそこでの盆踊り大会にでる予定もあります!!

アユタヤ王朝時代日本から伝播した有田焼の展示の準備も行っており、もしそれが実現すれば、佐賀の皆さんにぜひ見に来ていただきたいと思います。

さて前回活動紹介のときに述べたのですが、私の働いているロブリー県はアユタヤ王朝ナライ王の時代に遷都された場所で、その歴史的建造物の多くはアユタヤ王朝の影響を色濃く受けています。その中にギリシャ人重臣とその日本人妻マリ夫人の大邸宅の跡がのこっており、観光名所となっています。長崎のキリシタンの子孫として、アユタヤに生まれ育ち総理大臣の妻として波乱万丈の人生を送ったマリ夫人。日本ではほとんど知られていない彼女の生涯について触れたいと思います。

アユタヤ王朝の外国貿易は商業に非常に長けたナライ王（1656～1688）の治世に全盛期を迎え、シャム王国アユタヤは国際都市に発展しました。主にポルトガル・スペイン・英国・オランダと貿易し、各国の商館も開設され、アユタヤ島外南域には各国の外国人町がありました。

オランダはジャワのバタヴィアに本拠地を置き、オランダ東インド会社を基盤にして東洋貿易に乗り出し、長崎の出島と有田焼や銀の独占交易を行い、非常に強い勢力を誇っていました。

シャム沿岸各地にオランダ艦隊を配置しシャムの貿易を独占しようとするオランダの脅威を感じたナライ王はオランダの侵略を防ぐ為、フランスのルイ14世と攻守同盟を結ぶことにしました。その交渉にあたったのが、ギリシャ人の重臣ファルコンでした。ルイ14世の特使フランス大使が王のキリスト教への改宗を勧めるも、ファルコンの外交手腕によって、シャムはフランスの貿易と攻守同盟の覚書のみをかわし、無事オランダの侵略をくいとめることができました。彼は、英国東印度会社船のキャビンボーイ出身でありながらも、その多才ゆえにナライ王に重く用いられ、最終的にはチャオ・パヤ・ヴィチャエン（総理大臣の位）にまで登りつめました。

彼の妻、マリ・ギョマー夫人はポルトガル系の日本混血児の父と長崎出身の母を持つ追放されたキリシタンの子孫でした。英商館に出入りしていた父親を通して知り合ったようです。

彼女は父親の関係上日本人町の対岸にあるポルトガル人町に住んでいましたが、そこでも評判の美しい女性だったということです。彼女自身も両親と同様敬虔なキリスト教徒で、ファルコンも彼女の影響を受けキリシタンになっています。

ナライ王が防犯上の理由から1685年にロブリーに王宮を移した際、信頼の厚いファルコンのため、王は王宮北側の門をファルコン専用の通用門として授け「栄光の門」と名づけました。その「栄光の門」より500メートル北側に大邸宅も与えられ、その邸内には礼拝の為教会堂もつくられました。また、邸内の迎賓館においてフランス使節団やフランス軍隊の接待のための宴がよく催されたようです。

山田長政と同様外国人でありながら、その手腕と才覚にて栄光を手に入れたファルコンですが、その結末も同様に悲劇的なものでした。病気でふせていたナライ王の状態が重篤になるにつれ、王弟派が王位継承をかけて革命をおこし、王を助けようとしたファルコンは捕らえられてしまいます。彼を最後まで支えたのは、妻のマリ夫人でした。彼が王を助けようと王宮に出かける前、二人は礼拝堂で最後の祈りを捧げています。

ファルコンはロブリー城より1.5キロ東方にあるナライ王の離宮の庭にて処刑されました。革命後、王弟がプラ・ペチャ王となった際も、マリ夫人と息子のジョージはフランス軍艦に保護され、日本人町にかくまわれていた両親の元へと無事逃げ延びました。その後もしばらく病苦や貧困などの運命に翻弄されたマリ夫人ですが、アユタヤに平和が戻ったタイ・スラ王の時代に再び宮中に召抱えられ、宮中女官頭の任につき大膳係や教育係を受け持ちました。史実によると1717年までいき、晩年は教会や教育活動に奉仕した穏やかなものだったということです。孫2名の記録も残っており、現在も子孫がいる可能性は高いということです。

ほとんどの日本人観光客の皆さんは、アユタヤの日本人町を訪れ、山田長政の像を見て帰られますが、ほんの少し北に足を運んでいただくと、波乱万丈の人生を生きた日本人女性の足跡に触れることができます。アユタヤに来られる際には、ぜひロブリーまで足を運びください。ちなみに特別展は1月より9月を予定しております。

では、サワディーカー!!



地球市民の会は、社団法人協力隊を育てる会と、協力隊員の活動の支援をしています。

協力者一覧

平成18年7月から10月末までの集計です。

◆継続会員

ご継続ありがとうございます。

【正会員】

岩崎 正・岩波 利英
岩本かおる・江原 道郎
北村 靖文・竹山みやこ
野口 尚子・古川 康
古川こさと・御厨 和興
山口 晃・吉井 英隆
松尾 英明・植田 伸子
井口 潔・宮川 尚子
鈴木 良一・吉本 正光
古賀 洋子・山内 里紗

【購読会員】

相島 博文・御厨 初美
佐藤美樹子・重永 哲郎

【学生会員】

古賀 友大・瀬戸 亮伊
藤木 修・藤木 祐太
古賀 慈猛・中原 明子
西田 一貴

◆地球市民奨学金

ご継続ありがとうございます。

【タイクーキャオ中学校】

鈴木 晶子・藤木 修
平岡 修二・伊豆 哲也
古賀 洋子・藤 雅仁
田中 育夫・高柳 俊光
西村 秀敏

【タイクーキャオ高校】

満岡 聡・植田 寛
平岡 修二・藤木 修

【タイボーゲウ高校】

野口 尚子

◆2006地球市民奨学金

これからよろしく願います。

【タイクーキャオ中学校】

蘭 和子・小森 郁子
堤 清行・式町 伸子

【タイクーキャオ高校】

梅崎美佐子・尊田百合子

古賀 信子・里中 長治

吉井 英隆

【タイボーゲウ校】

福田 文子・松尾 成子
古賀 信子・宮嶋トミエ
松田 高男・有澤 正典
吉田 純子・松林久美子

【スリランカシヨダヤ奨学金】

石原 由季

◆書損じはがき・古切手 他

いつもありがとうございます。

石塚 雅子・小石原和男
中溝 澄子・鶴城はるみ
吉井 久子・鳥羽一番街
麻生 義之・佐藤さち子
八坂 木材・山下 定美

佐賀市文化会館
佐賀市国際交流協会
くぼ薬局北茂安店

龍 千秋
福岡資慶事務所
真島トシエ・吉井 英隆

NHK佐賀放送局
真如苑佐賀支部社会育成本部福祉班

高野たずこ・野口 尚子
西澤 和明・出町 恭子
麻生美矢子

◆寄付金

ご寄付ありがとうございます。

【事務局支援金】

中溝 澄子・唐沢 利夫
池田 瑛

【ミャンマー協力金】

古賀美佐子

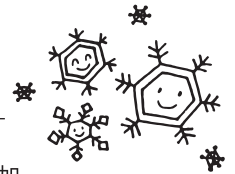
【ミャンマー指定寄付金】

成尾 雅貴・多良 淳二
満岡 聡

【文房具寄付】

(財)佐賀県国際交流協会

活動報告・予定



活動報告

7/21(金) TOYP大賞・授賞式に参加
7/21(金)～ アジア自然学校(イングリッシュキャンプ in 阿蘇)(～23日)
7/22(土) 地球市民の会ふくしま訪問(古賀会長)
7/25(火) 佐賀県国際交流・協力フェスタ 打合せ
8/1(火) アジア自然学校・エコトレック参加者説明会
8/4(金) 百生詩緒子評議員帰国歓迎会
8/8(火) 日本の次世代リーダー養成塾参加
地球市民みえの会・伊藤会長来福
福岡地球市民の会と懇親会
佐賀県留学生等推進協議会
8/11(金) 中原明子・山下陽子・青柳達也さんらを囲む会
8/16(水) アジア自然学校・ミャンマーエコトレック(～24日)
8/17(木)～
8/21(月) 12会さんとミャンマーツアーに関する打合せ
8/26(土) ミャンマー委員会・第4回理事会
8/30(水) JICA九州業務第一チーム・来訪
9/5(火) 佐賀大学Eラーニング取材
アジアガーデン・ワークショップ(第2回)
NTT西日本広報誌・ビオスより取材
9/7(木) ぶんぶんテレビ収録
9/12(火) 佐賀JC50周年記念式典参加(会長)
9/14(木) 総合看護学院・保健学科学生ボランティア来局
9/15(金) ミャンマーエコトレック・報告お茶会
神ノ戸有頂天倶楽部 設立総会
9/18(祝) ミャンマーインターン選考会
9/20(水) ミャンマー委員会・第5回理事会
総合看護学院・保健学科学生ボランティア来局
9/21(木) 国際協力フェスタ打合せ
国際協力フェスタ会場準備
9/23(土) 国際協力フェスタ・パネル展・バザー
9/24(日) 青年海外協力隊派遣前表敬訪問
9/29(金) 国際交流基金賞レセプション(東京)
10/3(火) 九州環境フォーラム打合せ(～5日まで)
10/4(水) 認定NPO法人説明会参加
10/5(木) 食彩塾参加(～9日まで)
10/7(土) えびすギャラリー下見
10/11(水) 御厨さん宅訪問
10/12(木) 長谷川ヤンゴン調整員帰国(～19日まで在局)
10/17(火) JA佐賀訪問
10/18(水) ミャンマー委員会・第6回理事会
(社)協力隊を育てる会設立30周年記念式典
" 会長・事務局長会議

地球市民の集い in Kawasaki
10/21(土) ミャンマーツアー説明会
10/22(日) アジアチャリティーバザー
" 会場: えびすギャラリー
" オープニング演奏会
" パッサンドルマさん
10/24(火) アジアチャリティーバザー 2日目
10/28(土) ～17:00まで

活動予定

11/2(木) 国際協力フォーラム
11/8(水) アジアガーデンワークショップ第3回
11/14(火) ミャンマーツアー出発 ～21日まで
11/16(木) " 第2グループ出発
11/28(木) ミャンマー委員会・第7回理事会
12/10(日) 大野ミャンマーPM・ご家族 帰国
12/14(木) 大野ミャンマーPM 帰国報告会(19:00～)
" 帰国歓迎会
12/18(月) ミャンマー委員会・第8回理事会

地球市民ネットワーク

北海道地球市民の会

〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長／阿部功 事務局長／新保知博
TEL・FAX：0133-74-1296

地球市民の会ふくしま

〒963-8681 福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1
(株)石黒
会長／事務局担当 石黒秀司
TEL：024-959-6426 FAX：024-959-6577

地球市民の会東京

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
信州会ビル4F (株)ナチュラル内
会長／津川宏幹 事務局長／青木高広
TEL：03-3662-0331 FAX：03-3662-0400
E-mail：aoki@nun.co.jp

地球市民ACTかながわ

〒231-0821 神奈川県横浜市中央区本牧原3-1-203
会長／近田真知子 事務局担当／伊吾田善行
TEL・FAX：045-622-9661
E-mail：port@tpak.org

地球市民みえの会

〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターパレス3F
津市市民活動センター内
会長／伊藤洋之 事務局担当／秋葉幸信
TEL：059-226-5700 FAX：059-224-8911
E-Mail：miemiemiemi21@hotmail.com

地球市民の会ぎふ

〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1 竹花園内
会長／森幹治 事務局担当／平井八重子
TEL：058-391-5415 FAX：058-391-8600

愛媛地球市民の会

〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640
はばたき授産園内
会長／篠崎和夫 事務局担当／丹生谷宗久
TEL：089-963-3772 FAX：089-963-3795

地球市民の会福岡

〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
(株)増屋内
会長／増田誠司 事務局担当／西村和寿
TEL：092-801-5888 FAX：092-801-5789

北九州地球市民の会

〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長／河野一郎 事務局担当／大山研児
TEL：093-521-8181 FAX：093-551-2296

神ノ戸有頂天倶楽部

代表者／松本隆司 事務局担当／大西陽治

地球市民の会京都

代表者／宮川尚子 事務局担当／西田一貴

ネットワーク・テラ 秋号 VOL.125

発行：特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ：http://tpa.nk-i.net
E-mail：office@tpa.nk-i.net
TEL：0952-24-3334 FAX：0952-24-7321

発行日：2006年12月25日

発行人：古賀武夫

編集人：地球市民の会 事務局

印刷：株サガブリンティング



スリランカ 2007年度シショダヤ奨学金里親募集!

スリランカはインド洋の南東に浮かぶ島国で『光り輝く島』と呼ばれる、九州とほぼ同じ大きさの国です。

「シショダヤ奨学金」はスリランカにおいて恵まれた才能と強い勉強への意欲がありながら、貧困のために進学できない生徒を経済的・精神的に支援するために設けられたものです。皆様の暖かいご支援があれば、彼女達はきっとスリランカを背負っていく人材になるはずです。どうかこの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう心よりお願い申し上げます。

■申し込み方法■

別紙の申込書に必要事項をご記入の上、地球市民の会までお送りください。

協力先：サンガミタ女子高校

期間：2007年1月～2008年12月（2年間）

対象者：2007年入学 高校生5名

支援額：32,000円

支払方法：2年分一括納入（32,000円×1回）

1年分分割納入（16,000円×2回）

振込先：○郵便振替 01790-3-26351

特定非営利活動法人 地球市民の会

※通信欄に「シショダヤ奨学金」と記入してください。

○現金書留の場合、当会宛てにお送りください。



編集後記

先日、ミャンマーのプロジェクト現場に会員の方々と訪れてきました。今は比較的過ごしやすいついで、黄色い菜の花のような美しい花が絨毯のように広がっており、「あの花は油を採るのですか?」と現地の人に聞くと、「それは観賞用ですよ」といわれて何とも食べる私としては大変驚縮してしまいました。五年にわたり奨学金の担当をし、常に本当に貧しいタイの農村部を訪れている私にとって、貧しい環境に何を感じ、また何をすることが出来るのか。毎回の大きな課題となっていました。しかし、今回のミャンマー訪問は「私には何が在るのか?」を自分に問う旅となりました。物にあふれた環境で確かに不自由はしないものの、忙しさに追われる毎日。残念ながら、身の回りにもあるものに感謝し、生きていく喜びを実感することがなくなっていました。ミャンマーを訪れたハムシー寮で、両親を失った幼い子供に出会いました。まだ、失ったものの大きさを感ずることもできないような年頃でした。何も握っていない小さな手でしたが、硬く握りしめた両手は、彼の心の緊張を表わしていたのではないのでしょうか。両手でそとその手を包みこみ、私はその子の幸せな未来を願わずにはいられませんでした。いつかこの子の手を暖かな手で包んでくれる人が現れますように。自分の近くに在るものに対する感謝の気持ち、「在るものを探す旅」をしてみませんか? (尚)

今号のひとこと

- 前の職場に遊びに行った時、子供の成長ぶりに感動～!! [吉岡]
- 自然の中での陽の暖かさ…(蘇陽町にて) [畑]
- クーキャオを卒業して、今は母校の先生になっている人からお手紙が届きました! [西村]
- 半年ぶりにミャンマーから帰国して、ごみの落ちていない道路に感動しました! [長谷川]
- 友の結婚式、号泣!もうそんな歳なんだなあ、お幸せに!! [池田]
- 最近歳を重ねると、感激、感動することが少なくて…最後に感動したのはいつ? [納富]

感動しました!

地球市民の会、及び地球市民運動は、特定のいかなる思想、宗教、政党とも、特別な関係は一切なく純粋に、世界中の人々のニコニコ生活を目指した運動を展開しております。